

「ASTERIA Warp Partner Award 2020」で 「Excellent Partner 2020」を受賞

当社はこのたび、アステリア株式会社より、「ASTERIA Warp Partner Award 2020」において「Excellent Partner 2020」を受賞しました。なお、本アワードにおける当社の受賞は、2年連続となります。今回の受賞は、「ASTERIA Warp」を活用したソリューションを数多くのお客さまへご提供し、ASTERIA Warpパートナーの中で年間販売実績第2位を達成したことが評価されたものです。

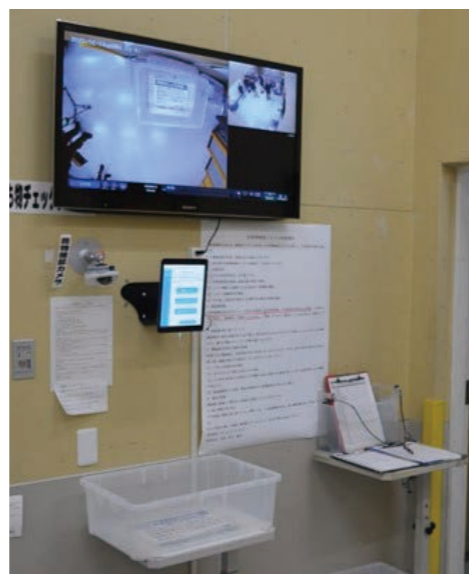
大手家電量販店ジョーシンが 「Ciero 従業員手荷物検査クラウドサービス」を採用

当社の連結子会社であるパナソニック ネットソリューションズ株式会社は、上新電機株式会社が展開する家電量販店ジョーシンへ「従業員手荷物検査クラウドサービス」を2019年11月1日に導入しました。これにより、バックヤードのセキュリティ強化と業務効率化を実現しました。

上新電機では、従業員および関係者全てに対し、バックヤードの入室時と退室時に、内引き※防止を目的とした手荷物検査を行っています。本サービスは監視カメラとiPadを活用したシステムで、従業員自身で手荷物検査を実施できるため、上位者の立ち合い時間が削減されました。その分をコア業務である接客時間に充てることで、お客様とのコミュニケーションの時間を拡大することが可能となりました。

また、本サービスは手荷物検査実施時に顔認証を行うことで実施履歴が残るため、管理表の記入漏れが発生しません。また、検査未実施者をメール通知する機能により、未検査者がほぼ無くなりました。さらに、女性従業員が男性上位者に荷物を見せる心理的負担に加え、男性上位者が女性従業員の手荷物検査を行うことに対する心理的負担が軽減されました。

※内引き：従業員が店の商品や売上金を盗む行為。



イベント・セミナー予定

当社では、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、多数の参加者が集うセミナーの開催を中止しておりましたが、5月よりウェビナーの形態で開催を再開いたしました。

詳しくは <https://is-c.panasonic.co.jp/event/> をご覧ください!

編集 後記

数年前から広報の勉強会に参加していますが、ここ数ヶ月はZoomでのオンライン開催となっています。全員が発言できるような空気作りやグループワークの方法など注意点はありつつも、やはり仲間とリアルタイムで学び合える良さは確実にあるなど実感しています。オンライン講義、特にライブ講義についても、是非お気軽にご相談ください。

発行元
パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社
ビジネス企画・管理部 ビジネス企画チーム
〒140-0002 東京都品川区東品川2-3-14 東京フロントテラス18F
TEL:03-5715-5470 FAX:03-5715-5471 <https://is-c.panasonic.co.jp/>
※本紙掲載記事の無断転載・複製を禁じます。
※本紙に記載された社名および商品名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

IS CLOSE UP

パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社

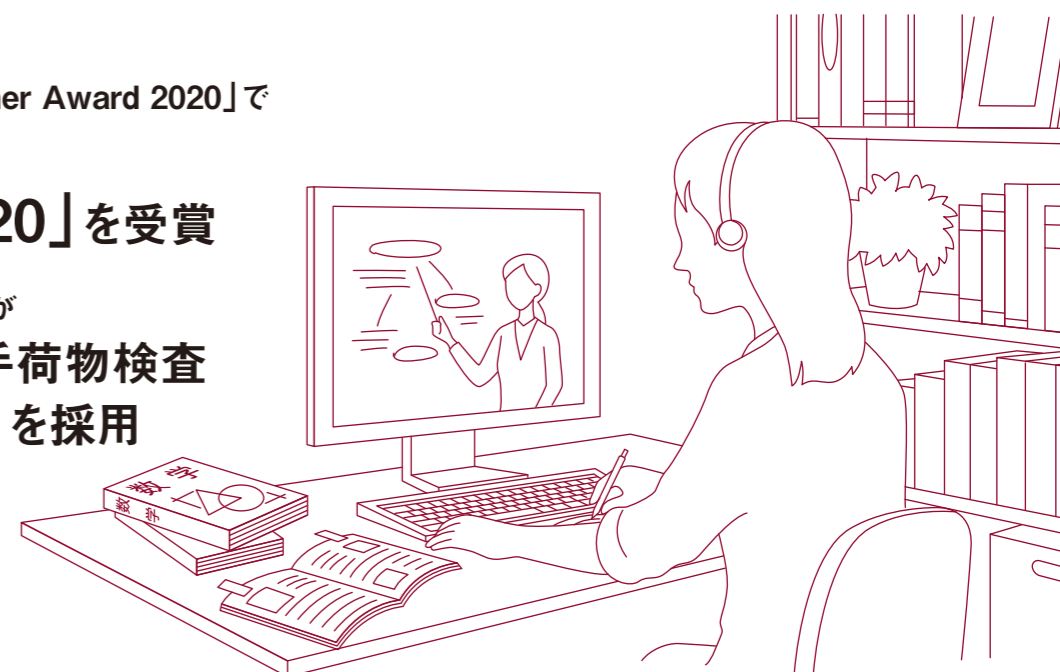
2020.6
vol.70

オンライン講義の 活用と整備について

TOPICS

「ASTERIA Warp Partner Award 2020」で
「Excellent
Partner 2020」を受賞

大手家電量販店ジョーシンが
「Ciero 従業員手荷物検査
クラウドサービス」を採用

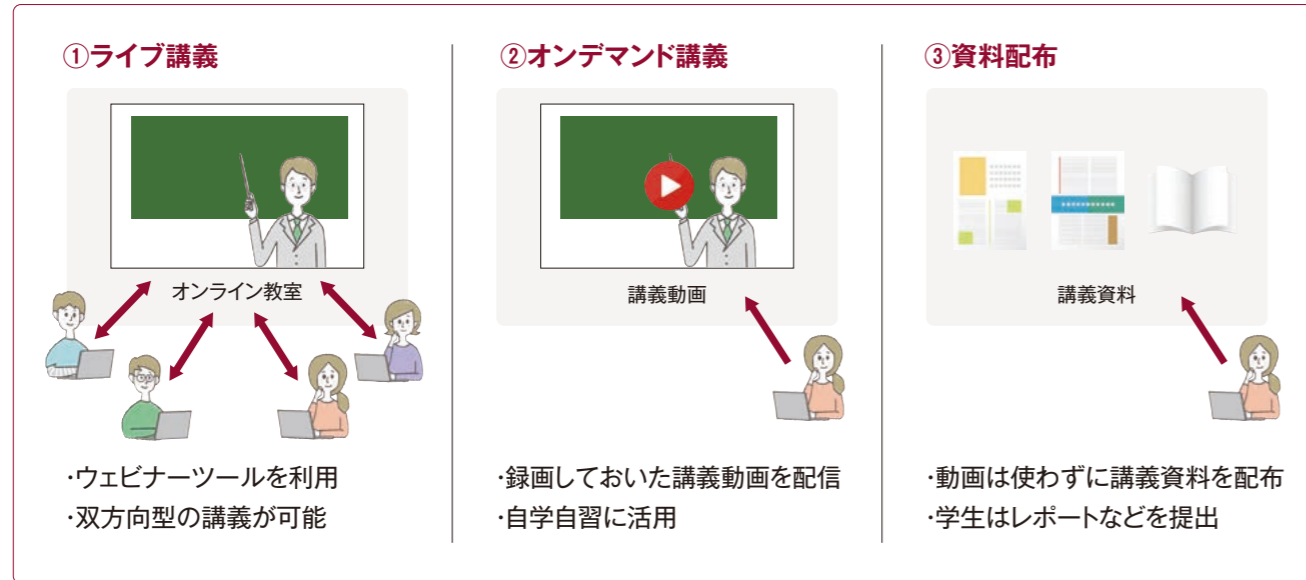


オンライン講義の活用と整備について

遠隔でも充実した学びの場を作るには？

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、多くの大学では対面講義からオンライン講義への切り替えを迫られています。先行きが見えない中、感染防止と教育の両立が模索されている状況ですが、そもそもオンライン講義にはどのような方式があるのでしょうか。

オンライン講義のタイプは大きく3つ



オンライン講義の方式は大きく3タイプあります。

①**ライブ講義**は教員も学生も決まった時間に参加して双方向にやり取りができるため、最も対面講義に近く、学生にとっても質問しやすい方式です。

②**オンデマンド講義**と③**資料配布**は学生の好きなタイミングで学ぶことができます。②は「聞き逃したところを

巻き戻せる」というメリットがありますが、②③ともに、質問を受け付けたり、課題を与えてコメントするなど、理解不足を補うための十分な指導が必要になるでしょう。

その他、「どのようにして学生へ案内するか」「出欠の取り方」「通信環境を持たない学生にいかに対応するか」などの検討が必要です。

検討が必要な点

- ✓ 学生への案内方法
- ✓ 出欠の取り方
- ✓ 学生の通信環境への配慮
- ✓ 質疑の方法
- ✓ グループワークの方法
- ✓ (オンデマンド講義時) 再生速度の変更を良くするか

ライブ講義・オンデマンド講義の両方で学修機会をサポート



「対面講義と同等」が必須

神奈川歯科大学では、オンライン講義の立ち上げにあたり「対面講義と同等の学修機会を確保できること」が第一の要件となりました。そのため、教員と学生がリアルタイムで双方向にやり取りできるライブ講義をメインの方式として選択されました。

ライブ講義はZoomなどのミーティングツール単体でも実現できますが、学生への接続先URLの案内や出欠などが手間

になり、特に大規模の講義では教員の負担が非常に大きくなってしまいます。これらの管理に加え、従来から講義欠席者の補完用に行われていた「講義動画のオンデマンド配信」も同一プラットフォーム上で管理できるしくみが求められていました。

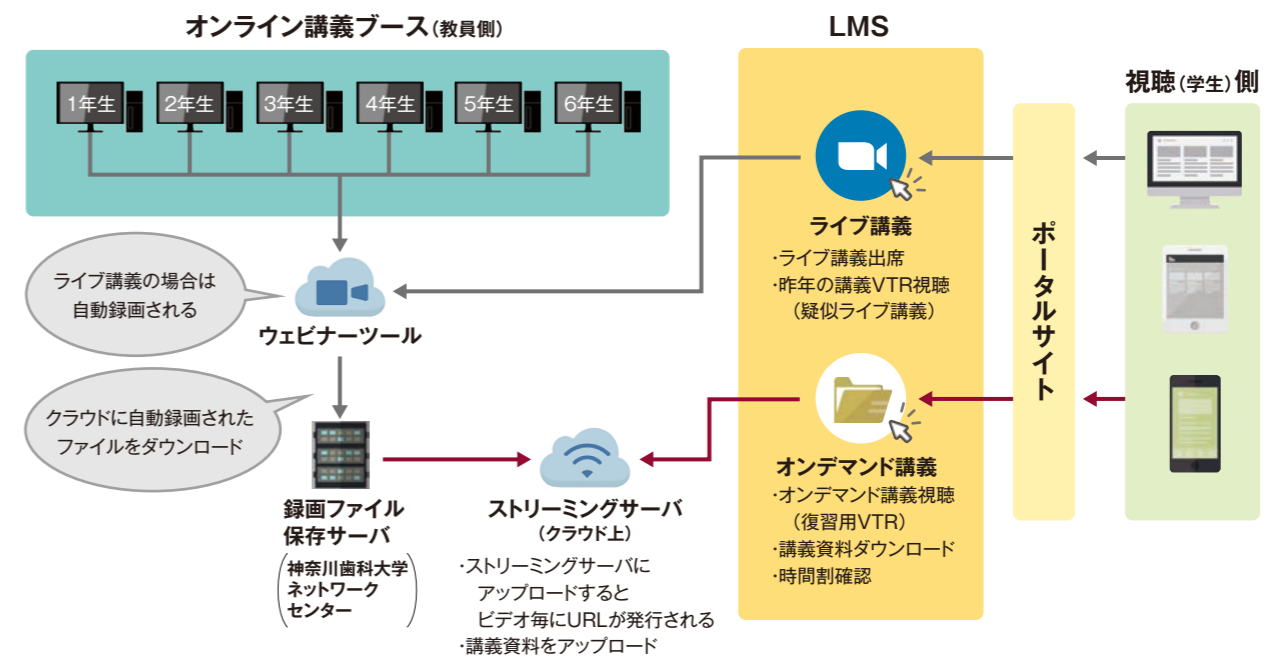
約2週間で構築完了

構築期間はわずか約2週間。システムはLMS(学習管理システム)・ウェビナー

ツール・ストリーミングサーバ・クラウドレコーディングを組み合わせたしくみで、時間割(接続先URL)の確認、講義資料データのアップロード/ダウンロード、オンライン教室への入室、講義動画の視聴などがすべてLMS上で行えるようになっていました。

対面講義が再開してからも、分散登校など大学構内の人数を減らす措置を補完する目的で本ソリューションの活用が期待されています。

ライブ講義・オンデマンド講義の両方をLMS上で管理



※ウェビナー：オンライン上で行う講演会・セミナーのこと。ウェビナーツールでは基本的に講演者の音声と映像のみが共有され、視聴者の発言は許可制となります。誰でも発言できてしまうウェブ会議ツールと異なり、スムーズに進行できるため、ライブ講義に適しています。